

風は静まった

マタイ14:22~33 / 李正雨師

皆様、もしもすぐに消えない余韻などによって、とどまった席を去りたくなかったことがあるでしょうか。例えば、音楽会やコンサート又は映画などによって深い感動を受け、もう少しその場にとどまりながら吟味したいと思ったことがあるでしょう。私の場合には、中学校の時「Dead Poets Society(今を生きる)」という映画を見て大きな感動を受けました。それで映画が終わっても、しばらくの間座った席から離れず、映画の感動に浸っていました。そしてその後も、私も映画の中のロビン・ウィリアムズ（ジョン・キーティング役）のような先生になりたいと思っていました。だからか、今、先生と呼ばれる仕事をしているようです。

今日の福音書の弟子たちも、大きな感動に浸っていたと思います。先週の福音書で、弟子たちはイエス様がパン5つと魚2匹で5000人を食べさせた奇跡の現場にいました。神様が荒野のイスラエルの民にマナとウズラを与えてくださったように、イエス様も人里離れたところでパン5つと魚2匹で数千人を食べさせたのです。そして、数千人の人々が食べ残したパン屑は、12かごでした。イスラエルの文化の中で、12という数字は特別な数字です。旧約聖書では、イスラエルの12部族を表す数字であり、新約聖書ではイエス様の12使徒を表す数字です。そしてこの数字は、イスラエルの力と栄光を表すものでした。

モーセは、神様から律法を受ける前に、祭壇を築き、12部族を象徴する12の石の柱を建てました。祭司の服には、12部族の名前が彫り付けられた宝石が付いていました。エリコを探るために最初に送られた人々は、12人でした。ヨルダン川の中には、今日までも12の石が立てられているとヨシュア記4章に書いてあります。また、新約聖書に移ると、イエス様は弟子たちが12の座に座って、イスラエルの12部族を治めることになると言われます。マルコの家で聖霊を待ちながら熱心に祈った人々は120人であり、この120人がイスカリオテのユダに代わる12番目の弟子を選びます。このように、12という数字は、旧約聖書と新約聖書にとって、特別で重要な数字です。ところが、イエス様が旧約聖書の時代の出来事のように数千人を食べさせた所で、パン屑12かごが出てきました。これを見た弟子たちは、どのような感動を受けたのでしょうか。いよいよイスラエルに救いが臨まれたと思ったでしょう。過去、神様がイスラエルをエジプトから導き出したように、自分たちをローマから救ってくださるだろうと思ったでしょう。私は、弟子たちとそこに集まった大勢の人々みんなが、このような考えや感動にとどまっていたと思います。

しかし、イエス様はこのような感動の中に浸っている弟子たちを強いて、船に乗せられました。そして群衆を解散させられます。今日の福音書22節の言葉です。「それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。」イエス様は過去の栄光を夢見ている群衆をガリラヤ湖へ、それぞれの家へ送られます。なぜイエス様は群衆を解散させたのでしょうか。おそらく彼らが夢見ていることが神様の御心とは違っていただけだと思います。過去のような救いではなく、違う救いが彼らに与えられなければならなかったからだと思います。そしてイエス様は祈るためにひとり山にお登りになりました。23節の言葉です。「群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。」

イエス様がひとりでおられたという表現は、福音書でよく登場している表現です。イエス様はたまたま祈るために弟子たちを離れました。おそらく神様の御心を聞くために、一人で祈られたのではないかと思います。多くの人々の意志ではなく、神様のご意志、神様の言葉に集中するために、イエス様は山に行かれました。そしてその間、弟子たちはガリラヤ湖で波に悩まされます。24節の言葉です。「ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。」

弟子の中で何人かは、熟練した漁師でした。誰よりも風に慣れた人々、状況の対応に自信がある人々だったでしょう。ガリラヤ湖は、海ではなく湖ですが、低い地域の湖です。私の後ろの写真をご覧ください。湖の周りには、ヘルモン山のような高い山といくつかの低い山があります。この山から冷たい風が吹いて暖か

い湖の空気とぶつかると、湖ですが、このように波が起きるそうです。それで、過去のガリラヤの漁師たちは、このような波にも備えていたと思います。しかし、今日の福音書での逆風には、熟練した漁師であっても、いろいろ力不足でした。自分が職業、最も自信がある仕事に悩まされていたのです。

時間は経ち、夜が明ける頃、イエス様は湖の上を歩いて弟子たちのところに来られました。弟子たちはこれを見て、大変驚きます。イエス様を見て、幽霊だと思い、恐怖のあまり叫び声をあげました。当時のガリラヤの人は、ガリラヤ湖に悪魔が住んでいると信じていたそうです。なぜこのようなことを信じていたのかは、よく分かりませんが、おそらく自然に対する漠然とした恐怖のようなものではないかと思っています。マルコ5章には、レギオンという悪霊が出ていますが、イエス様がこの悪霊を追い出すと、豚に入ってガリラヤ湖の中でおぼれ死んだと書いてあります。このような記録があるのを見ても、弟子たちもガリラヤ湖の悪魔の存在を信じていたと思います。それでイエス様を見て幽霊だと思ったようです。イエス様は叫び声をあげた弟子たちに「安心しなさい。わたした。恐れることはない(27節)。」と言われます。するとペトロはこう答えます。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください(28節)。」

この次の話は、皆様もよくご存知だと思います。ペトロは、水の上を歩きましたが、強い風に気がついて湖に沈みかけます。するとイエス様は、ペトロを捕まえてこう言われます。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか(31節)。」そしてペトロと共に船に乗られると、風は静まりました。メシアの救いが弟子たちの船に臨んだのです。

私は、この場面を読んで、メシアの救いが何なのかを考えてみました。イエス様はパン5つ、魚2匹で弟子たちを含む数千人を食べさせました。そして残った12かごのパン屑によって、集まった人々は、いくらでも過去のイスラエルの栄光を思い出すことができました。この時、イエス様は群衆を強いて解散させ、群衆はみんな自分の現実に戻りました。弟子たちは船へ、集まった数千人の人々は、自分の家に戻りました。そして、弟子たちは現実の中で逆風と出会いました。自分たちが慣れていた状況でしたが、ある程度は自信があることでしたが、逆風に勝つことはできませんでした。それで、弟子たちみんなが悩まされているうちに、イエス様は弟子たちのところに来られました。そして弟子たちの船に乗り込むと、風は静まりました。

イエスの救いは、そのように弟子たちのところに臨みました。過去のイスラエルの栄光や神の力をこの世に見せる救いではありませんでした。現実の中でいろいろなことによって悩まされている人々を訪ねられたイエス様、苦難の場に臨んだ救い、これがメシアの救いでした。ローマを力によって圧倒するメシアではなかったのです。それでイエス様は、群衆を強いて解散させたと思います。イスラエルの栄光を実現するのは、イエス様の救いとは関係ないことだったからです。イエス様の救いは、弟子たちのように現実の中で悩まされている人々のところに臨むのです。私たちが毎週祈っているウクライナやロシア、ミャンマー、アフガニスタンなどの人々の上に。さまざまな病気によって悩まされている人々の上に。難民たちと神様の摂理を求めている人々の上に。イエス様の救いは必ず臨むのです。

しかし、たまに私たちは、ペトロのようにイエス様の救いを疑うこともあるでしょう。私たちの信仰が深くないので、水の上を歩いても強い風に気がついて湖に沈みかけることもあるでしょう。しかし、私たちの信仰と関係なく、イエス様の救いは臨みます。弟子たちの船に臨んだ救いが私たちの世界にも臨みます。そしてその救いによって、強い風は静まることになるのです。時々私は、私たちが住んでいるこの世は強い風が吹いて、波が打つガリラヤ湖のようだと思います。または、悪魔が住んでいるガリラヤ湖のようです。数え切れないほどの犯罪と偽り、力ある者の横暴と人間の利己心などを見ると、私たちの中に悪魔が住んでいるのは、明らかです。それにもかかわらず、神様はこの世を愛してくださいました。それで、独り子を与えられました。そして、イエス様によって人々を悩ませていたすべての風は、静まることになるでしょう。イエス様の救いが苦難を受けている人々のところに臨まれたからです。この驚くべき福音の知らせがこの世の中で、いろいろな被害を受けている人々と共にありますように。皆様の家庭と隣人の上に宣べ伝えられますように、主の御名によって祈ります。アーメン